陸平通信

OKADAIRA

第Ⅱ期 117号

2024年3月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291　FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

茅葺屋根にふれる貴重な体験

▲屋根の高さまで組まれた足場にのぼり、ガギで茅を整える作業を体験

国登録有形文化財「小澤家住宅」では茅葺屋根の傷みが著しく、今年度修理をおこないました。美浦村内でも昔は茅葺屋根の家が多く、葺き替え作業は地域の人びとが協力しておこなう身近な景観でしたが、家の形が変わり、今ではそのような風景を目にする機会はなくなりました。茅葺屋根の修理期間中、村内の小学生が昔のくらしについて学ぶ授業の一環で見学に訪れました。児童は茅職人の松木礼さんと杉山信義さんから茅葺屋根についてお話を聞き、その後、葺き替え中の茅葺屋根を見たりさわったり、作業の一部を体験させてもらいました。次々とあがる児童の質問に職人さんは丁寧に答えてくれました。児童にとって茅葺屋根に触れる貴重な機会となったことでしょう。茅葺屋根の葺き替えの様子は P2 ～ P3 をご覧ください。

職人さんから茅葺屋根について学ぶ▶

梅も笑って菜の花咲いて蝶もよろめく春日和　（日和吟社俚謡集より）

↑小澤家住宅主屋　名主住宅の名残を伝える式台玄関

←主屋北側屋根には木が生えていました。
茅は土壌化しカブトムシの幼虫がいました。

ガギ→
茅の先端を整えるためにたくさんの窪みが作られている。
こうした茅葺きに使う道具はほとんどが職人さんの手作り。

④

⑤

⑥

⑦

⑧

茅がある程度葺きあがる毎に「ガギ」と呼ばれる道具で茅を整えます（写真⑦）。

最後に「刈込(かりこ)み」を行い屋根の形を整えすべての作業は終了します（写真⑧）。

■おわりに

今回の葺(ふ)き替(か)えは屋根全体を行ったのではなく、日当たりが悪く傷みの激しかった北側と西側の一部の茅(かや)を新しくしたものです。現在、良質な茅材(かやざい)を入手することは年々困難となり、また茅葺職人(かやぶきしょくにん)さんも減少する一方で、費用の面も含めなかなか一度に全部葺(ふ)き替(か)えることができない状況です。これは、県内はもとより国内すべての草屋根民家(くさやねみんか)が抱えている問題でもあります。

今後草屋根を保存するためには所有者だけではなく、地域(ちいき)総(そう)がかりでその方法を考えていくことが大切です。

（本書の作成に当たっては、小澤家住宅の葺き替えを担当した茅葺職人、松木礼さん、杉山信義さんのお話し、菅野康二著「茅葺きの文化と伝統―歴史に埋もれる茅葺き屋根の記録」を参照しました。）

美浦の古民家 ―草屋根葺き替えの記録―

本事業は 2023 年度公益財団法人東日本鉄道文化財団「地方文化事業支援」の採択事業です

■はじめに

国の登録有形文化財となっている「小澤家住宅主屋」（大谷）の屋根の葺き替え工事が、令和５年 12 月から同６年２月まで行われました。昭和 30 年代頃までは村内でも多く見られた草屋根の民家ですが、建築当時の姿が見られるのは今では小澤家住宅だけとなってしまいました。建築様式から明治時代の中頃に建てられたとされている主屋ですが、江戸時代の名主屋敷構えを伝える貴重な建築として、平成 21 年に国の文化財に登録されています。

■草屋根とは

今では瓦など人工的に作られた材料で屋根を覆いますが、昔から民家では身近にある自然の素材をうまく活用して屋根材としていました。その代表が、茎が丈夫なイネ科の植物で、一般的には「茅」と総称されている植物です。「茅」を利用したものを一般的には「茅葺屋根」と呼びますが、茅を含めて主に草本（木にならない植物）を利用した屋根を総称して「草屋根」と言います。

■茅の種類

実は「茅」という種の植物はなく、前にも書きましたが屋根材に使うイネ科植物の総称として使われている名称です。代表的なものに「イネ」、「ムギ」、「ヨシ」、「ススキ」、「オギ」、「チガヤ」、「ササ」などがあります。屋根葺き職人さんはそれぞれが持つ特徴を熟知し、使用する場所を考えて茅を選択します。昔は地域で茅場を設け火入れなどの管理を行い、良質な茅を身近なところから入手していました。

■茅の葺き方

最初に傷んだ古い茅を取り除きます。これを「ホゴシ」と言います（写真①）。茅を取り除くと竹で網目状に組んだ「下地」が現れます（写真②。傷んでいる所は補修します）。下地は茅を載せる台となる部分で、屋根の骨組みである「叉首」に固定されています。茅は下地の上に根元を軒方向にして、屋根の下（軒）から上（棟）に向って順番に葺いていきます。先ずは軒を作ることから屋根作りが始まります。これを「軒付け」と言い、屋根の厚さや見栄えを決める大事な作業で、この後に続く茅葺き全体の仕上りに関わると言われています（写真③）。並べられた軒付の茅は、表面に「オシボコ」と呼ばれる細長い竹を軒と平行に置き、荒縄でしっかりと下地に固定します。縄で固定することを「ナワトリ」と言い、地方によっては竹などで作った針のような道具を使って茅に縄を通しますが、これを茨城県では「テバリ」と言って手で行います（写真④）。

①

②

③

小澤家の軒付けにはイナワラ、シマガヤ、杉皮、そして軒先で雨水の垂れ落ちる部分には硬いヨシが使われていました。種類の異なる茅が使われている軒を見上げると段々の縞模様のように見えます（写真⑤）。これを「通し屋根」と言い、県南地域の特徴で「筑波流」などとも称されます。

軒付けが完了したら次は「平葺き」です。平葺きとは軒付け以後の茅葺作業のことで、屋根の傾斜に合わせながら茅を重ね、オシボコで葺いた茅を固定していくという作業を繰り返します（写真⑥）。大事なのは前に葺いた茅と重なるように、隙間が出ないように平に葺いていくということです。茅の根元と穂先は茎の太さが異なるので、どうしても穂先側が薄くなってしまい勾配が取れません。そこで「ノベ」と呼ばれる茅を補填する作業を行い、勾配を調整します。これがうまくいかないと窪みができて雨水が溜まりやすくなり、屋根の傷みを早めててしまう原因となります。

文化財センター展示室から

企画展示

「陸平遺跡群 ミコヤ遺跡の研究」開催中！

開館時間　文化財センター開館日の午前９時～午後５時
※休館日：月曜日、祝日、年末年始

文化財センターでは、２月より企画展示「ミコヤ遺跡の研究」を開催しています。

ミコヤ遺跡は美浦村の安中地区、国史跡陸平貝塚とは谷をはさんで隣接する位置にあり、ゴルフ場の造成に伴い発掘調査がおこなわれました。遺跡の場所は、現在おかだいらゴルフリンクスになっています。

展示名が「ミコヤ遺跡の研究」と難しそうなタイトルですが、内容は“ミコヤ遺跡を発掘調査したらこんなことがわかった”ということをご紹介しています。

ミコヤ遺跡では、今から 1,500 年～ 1,600 年前の古墳時代中期から後期の住居跡が 21 軒確認され、鉄製の鋤・鍬の刃先、玉、玉などを作るための原石、窯で焼かれた器（須恵器）などが出土しています。どうぞお気軽にご来館ください。

梅朝基礎落語（ばいちょうきそらくご）

落語で楽しいひとときを！

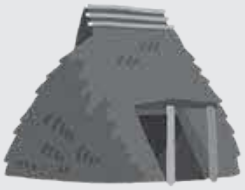
◆日にち　3月3日（日）
◆開　演　午後１時 30 分から
　　当日、直接文化財センターにお越し下さい
◆場　所　文化財センター
◆出　演　好文亭梅朝

※梅朝基礎落語は今回で 40 回目をむかえます。

予告！

5月3・4日に「縄文体験の日」を開催！

ゴールデンウィーク中、陸平貝塚公園を散策したり、体験を楽しもう！



くわしくは、今後の広報やホームページ、チラシなどでお知らせします。

＜情報をお寄せください！＞

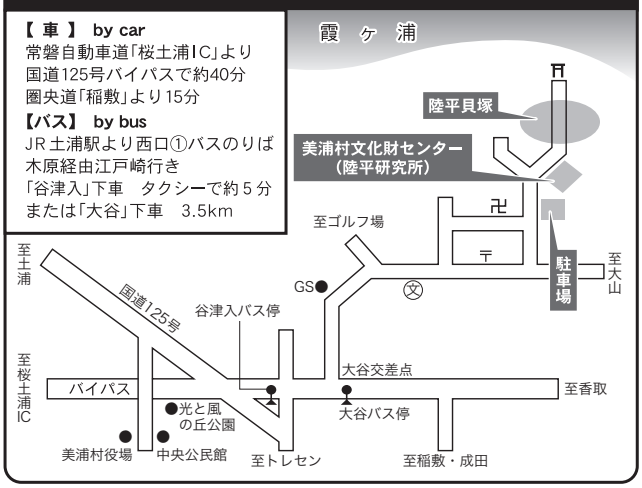
美浦村の歴史に関する資料を探しています

文化財センターでは、地域の歴史に関する資料を収集・保存し、後世に伝える活動を行っています。美浦村の歴史に関する古文書や絵図、地図、写真、古い襖（古文書が使われている場合があります。）などがありましたら、文化財センターへご一報ください。

また、鹿島海軍航空隊に関する体験や写真、情報などもお寄せください。

陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car
常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分
【バス】 by bus
JR土浦駅より西口①バスのりば
木原経由江戸崎行き
「谷津入」下車　タクシーで約５分
または「大谷」下車　3.5km



◆お問合せは、文化財センターへ
☎０２９－８８６－０２９１